は免れざる所にして若し不注意に實施するときは多くの剣道防具を損じ或は危険を伴ふことなきにしもあらず、自動車は便利なる機なるも之を扱ふに當りては人力車を挽くと同様の注意にては危険なること同理なり、從來の木製目張消毒箱を使用したることも同様には扱ひ難きは當然なり、故に本器使用に當りては責任者を定め實地現場に於て監督せしむるを要す、當隊に於ては看護長を指名責任者とし必ず現場を監督せしむることに規定せり。

新案壓搾子による腎臓莖の

結紮

Hugh H. Young, M. D. Baltimore. (J A. M. A.

No. 21, 1936)

腎摘出の場合、腎臓莖を結紮するに當り屢々一、二の血管が壓搾子で把握せる間より脱出することがあつて、その斷端を探し出し止血せしむるに困難を感じることもある。此の爲に或者は血管を

第一圖

一本宛分離し、それを結紮すべしと云ふが、實際には炎衝性、織

第二圖

維性組織内に埋つて居るが故に之は困難なことである。

又壓搾子をその儘、四日間放置する方法を提唱した者もあるが、此

方法によるも尙壓搾子除去後致命的の出血のあつた例を経験して居る。強い壓搾子で挟まれた莖を見るに挟まれた部分の組織は極めて菲薄となり、之を結紮する時はその結紮さるゝ部分は極めて小なる爲、結紮絲が滑脱するのは當然である。この結紮絲の滑脱を防ぐ爲第一圖に示すが如き三本の壓搾子を考案した、その使用は第二圖に示す如くであつて、第一號の壓搾子は相當深く、併し大動脈、空静脈より離して置く。第一圖に示す様に、第一號は凹縁を斜に削り、第二號は凸縁を斜に削つてあるから、兩者を使用せる時は、兩者の間に莖に對して横に走る組織の隆起が出来る。又第三號にはその凹縁を削つてあるから、同様に第二、第三の間

にも組織隆起が出来る。結紮した場合この組織の隆起の爲血管の滑脱を防ぎ得らる(第二圖)。結紮する場合には腸線を壓搾子の下に入れ一度結び、此の壓搾子を緩めるに確實に結紮絲が溝の中に入る様になる、そこで壓搾子を除き第二、第三の結びを堅くする(第二圖3)。

第三圖

第四圖

第三圖は通常の壓搾子を密接して置いた場合(1—2)に改良壓搾子を密接して置いた場合(3)を示したもので、前者の場合には組織は一體に薄く壓潰され、その間に組織の隆起を残さない。此の關係は此の場合の莖の縦の切片をつくるに明かに示される(第四圖Aは通常の壓搾子を用いた場合、Bは新案の壓搾子を使用した場合)。

此の使用は尙他の血管或は莖の手術にも應用出来る。(前田抄)

新 器 械

被動性血管運動器 (Passive Vascular

Exerciser.) (Pavaex unit.)

本装置は末梢血管疾患の治療用に作られたもので、その發動器は、小車輪の附屬せる高さ三呎の長方形の箱の内に容れらる。支持臺の一侧には陽壓、陰壓及其の變化割合の頻度調節用制御配列盤がある、一方の端にはbootに通つる「ゴム管及電線引出口がある。bootミ稱するものは、重い耐熱性「ガラス」でつくられ、陽壓、陰壓の測定用氣壓計及「モーター」に通ずる管を備へ、患者ミ此の boot ミの間は六吋の長い金屬で boot ミ連結した三つの型の「カフス」で氣密に保たる。

本器使用の指示は急性血管閉塞、凍傷、大血管の變化を伴ふ血管障得である。之に反し血栓性靜脈炎、蜂窠織炎、急性及亞急性淋